

効果的なリスニング指導

Effective Teaching Methods for Listening Comprehension

中村典生

Norio Nakamura

Abstract

This paper investigates effective teaching methods for listening comprehension. Over a period of six years, students were tested to see how much their listening comprehension ability improved. The following procedure was used: (1) A listening pre-test was carried with new students every April, (2) 30 lessons (45 hours) were carried out annually, (3) Shadowing was taught as a means to increase listening comprehension skill, (4) A listening post-test was carried out every February.

As a result, the deviation score was found to have increased around 10 points each year. Some important matters on instruction are pointed out in this paper.

Keywords : Listening Comprehension, Shadowing,

1. はじめに

中村(2001)は、関東地区 4 年生大学における 4 年間の継続的な指導データをもとに、リスニングの効果的な指導法について論じている。ここで最も効果的であるとして採用されている指導法がシャドウイング (shadowing) である。シャドウイングは同時通訳者養成にも採り入れられる練習法で、ある発話を聞いてそれと同時に、あるいは直後にその発話を繰り返して言うこと、と定義される。柳原(1995)ではシャドウイングは習熟度が低い学生のリビング力改善にのみ有効であるとされたが、中村 (ibid.) では、学習環境を整え、適切な指導を行えば、比較的習熟度が高い学生に対しても、シャドウイングがリスニング力伸長に有効であるということが述べられている。

著者はこの議論を受け、2000 年度から 2005 年度まで、さらに習熟度が高い学生に対してもシャドウイングが有効であるかを確かめるため、継続的に研究を行ってきた。本稿はこの 6 年間にわたる研究結果をもとに、効果的なリスニング指導法について考察するものである。

2. 対象と方法

2.1 対象

東海地区公立短期大学英文科 (以下 A 大学と略記) の 1 年生を対象とする。なお、対象人数は年度によって多少の違いはあるが、毎年 55 名前後の人数である。

2.2 方法

A 大学 1 年次の必修科目の時間 (通年) を使い、リスニング力伸長に関する実験を実施する。その際、指導法としてはシャドウイングを採用し、教室は LL 教室を使用する¹。実験計画は以下の通りである。

- (1) a. 最初の授業時にリスニングのプレテストを実施し、入学時のリスニング力を測る。使用するテストは JACET 基礎英語聴解力標準テスト Form A である。
- b. オーラルイングリッシュ I・ (週 1 コマ, 90 分) の時間を用いてリスニングのトレーニングを行う。なお、授業時間数数は前期・後期とも 15 コマ、合計で年間 30 コマである。
- c. 年度の最終授業時に、リスニングのポストテストを実施し、一年間のリスニング力伸長を測る。使用するテストは JACET 基礎英語聴解力標準テスト Form B である。
- d. 年度の最終授業時に、シャドウイングに関するアンケートを実施する。

また、毎回の授業で行うシャドウイングの指導は、以下の手順で行うものとする。

- (2) a. ビデオ教材を用いて、一連の会話の流れ、場面設定などを確認する²。
- b. ビデオ教材中の会話を一部切り取り、シャドウイング

に用いる教材としてそのスクリプトを提示するとともに、音声を流してスキットを確認する。

- c. シャドウイング教材の意味を確認する。
- d. シャドウイングを行う³。

実際にシャドウイング教材として使用した例文としては、以下のようなものが挙げられる⁴。

- (3) Keiko: Excuse me, but how do I get to the Trans-American Pyramid from here?
 Man: Oh, it's easy. Just go down this road for four blocks and you'll come to a park on the left, and then ...
 Keiko: Umm, could you repeat that a little slower, please?
 Man: Sure, go down this road for four blocks. Then you'll come to a park, OK?
- (4) Keiko: Hi, I'd like to rent a car, please.
 Agent: Certainly. What kind of a car would you prefer?
 Keiko: A jeep.
 Agent: We have a jeep Wrangler convertible for \$69 a day, and Jeep Cherokee for \$69 a day.
 Keiko: I see. Well, I guess I'll take the Wrangler convertible.
- (5) Clerk: Would you prefer a window seat or an aisle seat?
 Keiko: Aisle seat, please. Near the exit, if that's possible.
 Clerk: I'm sorry. We don't have any near an exit.
 Keiko: OK, then I'd prefer not to be near the toilet if possible.

なお、中村(2001)も参考にして、指導の際は以下の点に留意した。

- (6) a. なぜリスニング力をつけることが大事なのか、またなぜシャドウイングがリスニング力改善に有効なのか、ということをも最初に念入りに説明し、納得した上でトレーニングを開始する。
- b. 視覚に頼らないことを徹底する⁵。
- c. 意味を考えながら発話することを徹底する。

(6)のように配慮したのは、シャドウイングが発話を伴うトレーニングであるにもかかわらず 聞き取る力であるリスニング力伸長に有効であるということが、学習者には理解しにくく、またそれ故効果が実感できにくいという理由からである。わだかまりを解消し、自分のリスニング力が改善できるという期待を持って、シャドウイングに取り組めるように配慮したわけである⁷。

3. 結果

以下は6年間の結果をまとめたものである(数字は偏差値)。

(7)

年度	プレテスト	ポストテスト	伸長
2000	54.1	62.8	8.7
2001	53.7	63.8	10.1
2002	55.7	65.9	10.2
2003	57.9	66.3	8.4
2004	58.0	66.2	8.2
2005	57.3	67.2	9.9

2000年度はプレテストの偏差値平均が54.1, ポストテストの偏差値平均が62.8, 伸長の平均は8.7であった。

2001年度はプレテストの偏差値平均が53.7, ポストテストの偏差値平均が63.8, 伸長の平均は10.1であった。

2002年度はプレテストの偏差値平均が55.7, ポストテストの偏差値平均が65.9, 伸長の平均は10.2であった。

2003年度はプレテストの偏差値平均が57.9, ポストテストの偏差値平均が66.3, 伸長の平均は8.4であった。

2004年度はプレテストの偏差値平均が58.0, ポストテストの偏差値平均が66.2, 伸長の平均は8.2であった。

2005年度はプレテストの偏差値平均が57.3, ポストテストの偏差値平均が67.2, 伸長の平均は9.9であった。

4. 考察

(7)で示したように、6年間を通じて偏差値として年間10前後の有意な伸長が見られた。最も1年間で伸長が顕著だった学生は、偏差値43が70となり、27も伸びたことになる。その他にも毎年5名前後の学生に、20以上の伸長見られ、また逆にほとんど伸びなかったり、下がってしまった学生は、毎年2名程度と非常に少数であった。中村(2001)で掲載されているデータのうち、最も顕著な伸長が見られたクラスでも、年間で偏差値5程度の伸長であったことを考えると、対象の学生が英文科の学生であり、学習意欲が高いことを差し引いても、(7)は驚異的な数字であるように思われる。

このように非常に顕著な伸長が見られるという結果となった理由について、年度末に行うアンケートの結果から考えてみたい。実際に行ったアンケートの内容は以下の通りである。

(8) シャドウイングに関するアンケート

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. シャドウイングをやる際、気をつけたことは何ですか 2. シャドウイングをやる際、難しいと思ったことは何ですか 3. 1年間の練習でシャドウイングが上手になったと思います |
|---|

効果的なリスニング指導

か。上手になったと思うこと, 思わないことを具体的に書いてください。

4. シャドウイングをやってリスニング力がついたという実感がありますか。

実感がある

よくわからない

実感はない

5. シャドウイングをやるようになって, 自分の英語学習, 英語力などについて何か変化がありましたか。具体的に書いてください。

6. シャドウイングという練習法について率直な感想を書いてください。

- ・長い文はスクリプトに頼ってしまいたくなる
- ・どうしても暗記してしまう
- ・発音がまだ日本人ばい
- ・一度つまづくとあきらめてしまう

d. 質問4に対する回答(2004年度のデータより(60人中))

実感がある 35名 58.3%

よくわからない 23名 38.3%

実感はない 2名 3.3%

e. 質問5に対する回答

- ・映画を見ると字幕がなくても少しわかるようになった
- ・洋楽の意味がわかるようになった
- ・TOEICのリスニングのスコアがどんどん上がった
- ・リーディングよりリスニングが得意になった
- ・頭の中で日本語に訳しながらリスニングしなくなった
- ・授業以外でもできるだけ聞きっぱなしにしないで, 自分で発話してみるようになった
- ・リスニングだけではなく, リーディングの際も英文をできるだけ前から訳すようになった
- ・リスニング重視の英語学習法が大事だという気になった
- ・時々テレビを副音声の英語だけで見るようになった
- ・駅などの英語のアナウンスに対しても自然に頭の中でシャドウイングしている自分に気がついた
- ・発音がネイティブっぽくなった

e. 質問6に対する回答

- ・シャドウイングする文章が難しすぎたり, 簡単すぎたりすると, あまり効果が期待できない気がした
- ・TOEICの成績も上がったし, やればできるという気になった
- ・最初はよくわからない練習法だと思ったけど, やっていくうちに効果があるんだとわかった
- ・結構楽しんでやれるのがいい
- ・最初は嫌だったけど今は好きになりかけている
- ・疲れるけどその分充実感がある練習方法だと思う
- ・中学・高校の時にやりたかった
- ・高校時代に習ったシャドウイングとは違った。やり方を間違わないようにしないと, 効果が期待できないと感じた
- ・シャドウイングはリスニングと発音両方ができるようになるので一石二鳥でお得だと思います

主な回答結果は以下(9)の通りである。

(9) a. 質問1に対する回答

- ・絶対にテキストを見ないで聞こえてくる音だけに頼ること
- ・頭の中で意味を考えながら発話すること
- ・暗記をしてしまわないで, 毎回初めて聞くつもりで練習した
- ・模範の音声の影になりきること
- ・何を言っているかわからないところは, スキップせずに巻き戻して確認すること

b. 質問2に対する回答

- ・速さについていけず, 意味を考えながらやれない
- ・単語と単語がつながっているところが上手に発話できない
- ・何度も同じ文章をシャドウイングしていると, 知らず知らずに暗記してしまい, 毎回意味を考えながらやるのができなかった
- ・特に最初は意味を考えながらやるのが難しかった
- ・一度つまづくと, その後が脱線して続けられなくなってしまふ
- ・聞き取れない語などが出てくると, どうしても目に頼りたくなってしまふこと

c. 質問3に対する回答

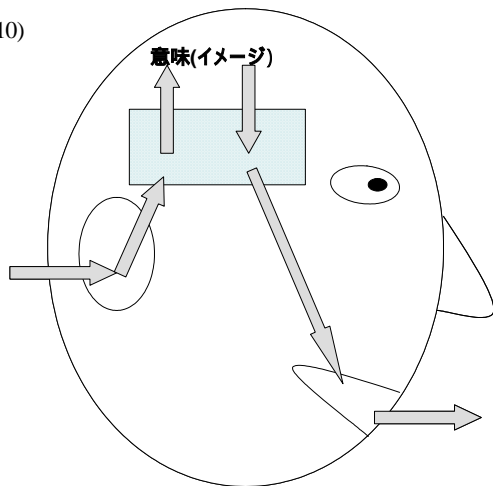
- ・ちゃんと抑揚をつけたり, 感情をこめて発話できるようになった
- ・意味を考えながら発話できるようになった
- ・発音に気をつけながら発話できる余裕が持てるようになった
- ・英語の語順で意味を処理できるようになった
- ・英語独特のリズムがわかった
- ・早い文にはいまだについていけない

質問1 シャドウイングをやる際 気をつけたことは何ですか, の回答の中では, 意味を考えながらやるように心がけた, という回答が目についた。これはシャドウイングの基本中の基本であり, 毎授業ごとに周知徹底したことであるので, このような回答が得られたことは, 学生も強く意味を考え発話することを

意識してくれたことがうかがえる。

脚注6でも少し述べたが、意味を考えないで行うシャドウイングは単なる早口言葉に過ぎず、リスニング力改善の効果が期待できない。これは以下の図から説明できる。

(10)



つまり、シャドウイングを行う際、耳から入ってきた音声は、の経路を通りブラックボックスに送られ、そこで意味解析されて、ようやく のように頭の中でイメージが描き出される。ここまでが通常のリスニングである。

しかしシャドウイングはこれだけではない。発話をしなければならぬからである。ブラックボックスでの意味解析には限られた時間しかないのだから、素早く処理ができるようになることが重要である。これを促すのが から へと向う発話の力なのである。連続的な発話は、ブラックボックス内の処理を滞らせないための号令であり、音声受容から発話までの から に及び一連の処理が完了した証拠を示すものでもある。言い換えれば、自分の発話のスピードで英語を理解できるようになることが、シャドウイングのポイントなのである。

しかし、意味を考えずに発話してしまうと、極端な話では(10)で示した の音声受容から直接 の発話へと向ってしまい、最も重要である から までの処理をスキップしてしまうことにもなりかねない。これではリスニング力の改善は期待できない。以上が意味を考えながらシャドウイングをやる必要がある最も大きな理由である。

さて、アンケートの質問2、シャドウイングをやる際、難しいと思ったことは何ですか、に目を移すと、暗記してしまわないようにすることが難しかった、という回答が気になった。何度も繰り返し練習するので、あえて覚えようとしなくても、自然に覚えてしまうのは致し方ないことである。しかし覚えこんでしまうと、先に述べたような早口言葉になりやすくなる。つまり意味の処理が伴いにくくなるのである。毎回初めてやるつもりでやりなさい、という指導はするよう心がけてはいるが、

それに加え、あまり簡単すぎない英文を教材として選択するということが重要になってくると思われる。これは質問6の回答の中の、シャドウイングする文章が難しすぎたり、簡単すぎたりすると、あまり効果が期待できない気がした、という回答に通ずるものがあると思われる。

質問3、1年間の練習でシャドウイングが上手になったと思えますか。上手になったと思うこと、思わないことを具体的に書いてください。及び、質問5、シャドウイングをやるようになって、自分の英語学習、英語力などについて何か変化がありましたか。具体的に書いてください。には興味深い回答が多くある。

たとえば、自然に授業以外でシャドウイングをやっている自分に気がついた、という回答は、週1時間だけしかない授業の効果が、他の場面にも及んでいることを物語っているように思われる。年間偏差値が平均で10ポイント程度、6年間にわたって伸び続けていることは尋常ではないと言う人もいる。それもリスニングに特化した授業は週1時間だけであるので尚更である。しかしこの回答が、学生のリスニング力伸長の理由の一端を示しているのではないだろうか。つまり、授業で行ったことが、授業以外の学習場面にも活用されているということである。

英文をできるだけ前から処理するようになったという回答も興味深い。日本人は日本語の語順で英語を処理しようとする傾向があることは周知の通りである。シャドウイングを行い、英語を英語の語順で、前から前から聞いたと同時に理解できるようになっていることがうかがえる。

最後に、質問4シャドウイングをやってリスニング力がついたという実感がありますか。という回答について考える。(6)で述べたように、当初、発話を伴うシャドウイングが聴き取る力であるリスニング力伸長に有効であるということが学習者には理解しにくいと思われたので、リスニング力がついたという実感は学習者にとって薄いのではないかと考えられた。しかし実際は、実感がある、と答えた回答者が6割近くにも上った。この回答率は、TOEICなどで実際にスコアが上がった学生が多かったことにも原因があると思われる。実際、質問5や質問6の回答からもそれがうかがえる。やはり目に見える数字的なスコアアップが、リスニング力がついたという実感につながっていることがうかがえる。

4. 結語

著者は2000年度から2005年度まで、習熟度が高い学生のリスニング力改善に対してもシャドウイングが有効であるかを確かめるため、継続的に実験・研究を行ってきた。その結果、プレテストの平均偏差値が50を越える習熟度が高い学生に対しても、シャドウイングが有効であるということがわかった。

効果的なリスニング指導

今後も学生がリスニングに自信が持てるよう、指導上の改善すべき点は改善しつつ、さらに継続的に研究をすすめていきたい。

(提出期日 平成 18 年 11 月 27 日)

註

1. A大学1年次の授業科目では、リスニングに特化した科目はこのオーラルイングリッシュのみである。
2. 実際に使用した教材は、大八木廣人&Timothy Kiggel (1998), 『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse. である。
3. (2d)において、いきなりシャドウイングを行うのは乱暴であるように感じられる部分もあるが、あえてシャドウイングが難しい場合にのみ、(i)スクリプトのリペティション、(ii)シャドウリーディング(スクリプトを見ながら模範音声を重ねて発話する)を行うよう指導した。これにより、視覚に頼るのではなく、聴覚に頼り切ることを徹底する狙いがある。但し、この指導は今回の被験者が比較的習熟度が高い学生であることが前提となっていることも付記しておく。
4. (3-5)のような形のスキットに加え、問題文とその答えからなる簡単な会話文や150ワード前後で構成される多少長いスキットのシャドウイングも行った。
5. 視覚に頼らないことを説明する際には、たとえばコンピュータのタッチタイピングなどを引き合いに出し、ある感覚が顕在化しすぎると、他の感覚を鈍らせることがあることなどを説明した。
6. 意味の処理を伴わないシャドウイングは、単なる早口言葉に過ぎず、厳密にはシャドウイングとは言えない。

参考文献

- 大八木廣人&Timothy Kiggel (1998), 『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse.
- 佐藤敏子・中村典生(1998), 「Listening の指導-Shadowing の効果-」『IRICE PLAZA』(IRICE 英語教育学会学会誌), 第8号, pp.60-73, 平成10年3月
- 佐藤敏子・中村典生(1999), 「リスニングの指導とその効果的な学習環境」『つくば国際大学研究紀要』vol. 5, 60-73.
- 佐藤敏子・中村典生 (2000), 「英語聴解力と文法運用力」『つくば国際大学研究紀要』 vol. 6, 55-65. (『英語学論説資料』第三十五号, 第六分冊(英語教育)にも掲載.
- 中村典生・佐藤敏子 (2000) 「シャドウイングを用いたリスニング指導」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』 vol. 50, 55-62.
- 中村典生(2001), 「シャドウイングの理論と実践」『意味と形のインターフェイス 下巻』(中右実教授還暦記念論文集編集委員会編) 1015-1025, くろしお出版.